第4回　再臨待望聖会

日本の霊的覚醒　ユダヤ人の救い　メシアの再臨

講師：黒川知文（愛知教育大学教授）

セツ・ポステル（イスラエル聖書大学教授）

中川健一（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表）

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

無断複製・転載を禁じます

目　次

「再臨運動とホーリネス・リバイバル」 3

１．問題提起 3

２．再臨運動と大正期ホーリネス・リバイバルの経過と時期区分 3

３．大正期ホーリネス・リバイバルの性格 4

４．大正期リバイバルの結果 5

５．ホーリネス・リバイバルの背景：リバイバルの条件 5

史料１　大正・昭和前半における宣教 7

史料２　リバイバルまでの『聖潔之友』の内容 13

聖　歌 19

「モーセの五書が指し示す福音」 21

スライド 21

「イスラエルの祭りに隠されたメシア」 35

イントロダクション 35

1. 異邦人クリスチャンとイスラエルの祭り 35

2. トーラーはメシアと新約を示している。 35

3. レビ記 23 章には、7 つの【主】の例祭が時間順に記録されている。 35

Ⅰ．過越の祭り（巡礼祭、レビ 23：5） 35

1. 内容 35

2. 預言的意味 36

Ⅱ．種なしパンの祭り（レビ 23：6～8） 36

1. 内容 36

2. 預言的意味 36

Ⅲ．初穂の祭り（レビ 23：9～14） 36

1. 内容 36

2. 預言的意味 37

Ⅳ．７週の祭り（巡礼祭、レビ 23：15～21） 37

1. 内容 37

2. 預言的意味 37

挿入：中間の４ヶ月（レビ 23：22） 38

1．内容……38
2．預言的意味……38
Ⅴ．ラッパの祭り（レビ 23：23〜25）……38
1．内容……38
2．預言的意味……38
Ⅵ．贖罪の日（レビ 23：26〜32）……39
1．内容……39
2．預言的意味……39
Ⅶ．仮庵の祭り（巡礼祭、レビ 23：33〜44）……39
1．内容……40
2．預言的意味……40
結論……40
1．イスラエルの祭りは、メシアの活動を予表している。……40
2．イスラエルの祭りの前半（春の祭り）は、すべて成就した。……40
3．今は中間期にある。……40
4．イスラエルの祭りの後半（秋の祭り）は、終末論を規定する。……41

賛　美……42

「再臨運動とホーリネス・リバイバル」

黒川知文（愛知教育大学教授）

1．問題提起

・再臨運動と大正期ホーリネス・リバイバルとはどのような関係があるのか
・リバイバル運動の背景には何があり、現在もリバイバルは起りうるのか

先行研究と史料

A　池上良正『近代日本の民衆キリスト教―初期ホーリネスの宗教学的研究―』
　　東北大学出版会、2006 年

B　日本ホーリネス教団歴史編纂委員会『日本ホーリネス教団史第一巻 ホーリネス信仰の形成』
　　日本ホーリネス教団、2010 年

・『聖潔之友』1919～1921 年（フェリス女学院大学図書館所蔵）
・米田勇『中田重治伝』福音宣教会、1979 年
・米田勇『中田重治全集』第１～５巻、いのちのことば社、1974～75 年

2．再臨運動と大正期ホーリネス・リバイバルの経過と時期区分

史料１参照

再臨運動	準備期	1917.5～
	開始・高揚期	1918.1～
	対抗・充実期	1918.6～
	対抗・沈静期	1919.12～
	衰退・転換期	1919.6～

再臨運動が短期間で終息した背景
・第一次世界大戦が終結して平和な状態になった。前千年王国論
・国内に再臨運動に反対する運動が展開した。
・説教者（内村鑑三）が再臨を語らなくなった。

大正期ホーリネス・リバイバル

開始期	1919.11
展開期	1919.12〜1920.1
最盛期	1920.2〜8
衰退期	1921.9〜

3．大正期ホーリネス・リバイバルの性格

池上氏

①指導者による教化・誘導・暗示・祈りなどによって、時間をかけて準備されていた
②中田重治の不在時に、周囲の人物によって最初の火が起こされた
③リバイバルは火にたとえられ、その火の延焼への努力が教会をあげて取り組まれた
④約４〜５ヶ月後に企画された大規模な聖会でひとつの頂点に達した
⑤強烈な再臨思想が共有されていた　A 257-258

ホーリネス教団歴史編纂委員会

「徹底した罪の悔い改め：感情的・熱狂的な体験」　B 399-409

拙論

①説教運動　「語る人」と「聴いて活動する人」
②聖化を求める運動：再臨の前提としての聖化（聖潔）を強調する　超時代的運動
「すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません」ヘブル書 12：14
四重の福音：新生・**聖化**・神癒・再臨
③宗教的恍惚状態：泣き叫ぶ人、笑う人、踊る人、倒れる人
＊内村鑑三「聖書の言を以て養はれし霊魂に聖霊の火が降る時に真の信仰復興が起るのである、斯かる信仰復興は狂熱的ではない、ウェスレーを以て起りしやうなる冷静にして永続的の信仰復興である」　『聖書之研究』第 235 号（1920.2.10）
＊中田重治「リバイバルは其外部の顕はれは兎にも角にも、内部的の革正であり、本質的の変化であらねばならぬ」　『聖潔之友』第 716 号（1920.6.24）
＊集合心性「人類にあっては、集合体の構成メンバーは常に何らかの程度に集合心性を帯びているから、そのメンバーが全き意味で相互に異質なものとなることは決してないからである」　G. ルフェーブル『革命的群衆』（創文社、1982 年）21 頁

4．大正期リバイバルの結果

B　411,420 頁

年	受洗者数	会員数
1917	―――	1,408
1918	324	1,653
1919	347	1,870
1920	308	1,667
1921	319	1,821
1922	570	2,732
1923	585	2,783
1924	758	3,123
1925	1,003	3,941
1926	1,916	5,257
1927	2,068	6,374
1928	2,214	7,874
1929	2,782	10,114
1930	4,311	12,046

池上氏「やがて起るであろう再臨への強い『期待』に支えられ、リバイバル的集会の恒常化によって教会成長をうながす原動力となりえた」　A 258

ホーリネス教団歴史編纂委員会「大正８年のリバイバルは直ちに爆発的な信徒数増加をもたらすという結果には至らなかった・・・このリバイバルによって信徒達の信仰がリバイブされたことが、その後の爆発的な進展に結びついていったという見方をすることができるであろう」B 412-413

拙論　教職者の霊的覚醒が時間をかけて都市労働者階層の信徒へ浸透していった

5．ホーリネス・リバイバルの背景：リバイバルの条件

史料２参照

①中田重治の**説教**による指導
②徹底した聖書と聖化論の**教育**
③信徒の**自由な証**
④イスラエルへの祈り

「**エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように』**」詩篇 122：6

写真5　再臨運動を開始した3人。
左から中田重治、内村鑑三、木村清松
(1918年2月大阪にて)

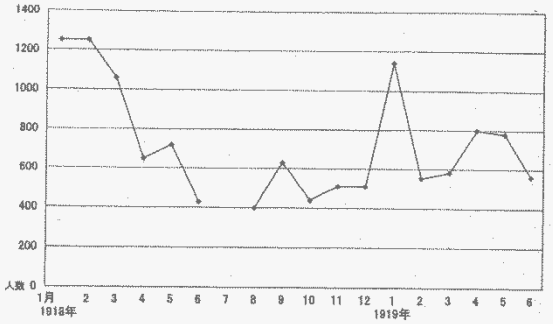


表1　再臨運動参加者数（月別平均）

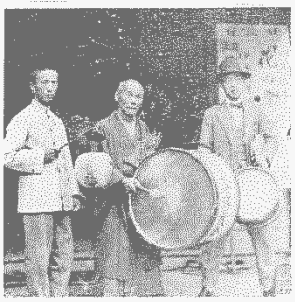


写真12　大日本私立衛生会館
1919年6月1日から1923年関東大震災まで聖書講演会に使用された。

地図3　東京市における再臨運動の3会場、1918年9月1日（『日本地図選集　明治大正昭和近代地図集成』人文社、1982年）

大正時代の路傍伝道の様子
出典：『天満教会90周年記念写真史』日本基督教団天満教会　1969年

リバイバルが起こった
柏木の聖書学院、1904年頃

聖書学院の五教授(左から、米田豊、一宮政吉、菅野鋭、小原十三司、車田秋次)

史料１　大正・昭和前半における宣教

１．第二世代のキリスト者が登場した
　明治時代：武士道　儒教の教養　　大正時代：個人主義　自由主義　教養主義
２．教派としての教会が独自の運動を展開していった
　メソジスト教会：禁酒運動　ホーリネスと日本伝道隊：リバイバル運動
　日本基督教会：神学研究　　日本組合基督教会：社会運動　　無教会：知識人の活動
３．社会問題への積極的な取り組みが見られた
　鈴木文治：友愛会　賀川豊彦：救貧運動　生協運動　吉野作造：民本主義大正デモクラシー
　救世軍：救貧運動　廃娼運動　　石井十次：岡山孤児院　留岡幸助：家庭学校
４．福音派のルーツが台頭した
　バックストンの日本伝道隊　日本アライアンス教会　日本同盟基督教会
　日本自由メソジスト教会　神の教会　ウェスレアン・メソジスト教会

西暦　　元号	時代状況	プロテスタント	カトリック	正教会
１９１２　大正１	第一次護憲運動	第１回三教会同　救世軍ブース記念病院開院		ニコライ東京で逝去
１９１３　　２	護憲運動デモ	全国基督教青年会大会	上智大開校	『正教思想』
１９１４　　３	第一次世界大戦	**全国協同伝道**（３年間）	ド・ロ没	
１９１５　　４	対華 21 条要求	**全国協同伝道名士会**		
１９１６　　５		吉野作造論文発表	『光明』	
１９１７　　６	ロシア革命	**全国協同伝道**終わる		
１９１８　　７	ドイツ休戦条約	**再臨運動開始** 吉野作造ら黎明会結成 ヴォーリス近江療養院開設		
１９１９　　８	パリ講和会議	**再臨運動終わる**		正教会憲法
１９２０　　９	国際連盟成立	**ホーリネス・リバイバル** 同志社大学設立許可 賀川『死線を越えて』 ヴォーリス近江セールズ株式会社設立	『カトリック』	
１９２１　　10	ワシントン会議	賀川豊彦イエスの友会		
１９２２　　11	日本共産党結成	賀川『雲の柱』		
１９２３　　12	関東大震災 甘粕事件	日本キリスト教連盟成立	『小羊』	ニコライ堂焼却
１９２４　　13	第二次護憲運動	三教代表者会 全国教化運動		
１９２５　　14	治安維持法・普通選挙法公布	教会合同促進委員会		
１９２６　昭和１	労働争議調法・治安維持法改正 日本労農党結成	賀川、日本学生消費組合創立 山室軍平、日本救世軍司令官に		

史料１　大正・昭和前半における宣教

西暦　　元号	時代状況	プロテスタント	カトリック	正教会
１９２７　　２	兵役法　山東出兵	宗教法案に基督教会反対 賀川、**日本農民学校**開く		正教神学校開校
１９２８　　３	共産党大検挙・大学社研解散命令	御大典記念日本宗教大会 同志社で大典奉賀式	上智大学設立許可	
１９２９　　４	共産党大検挙 宗教団体法案	賀川、**神の国運動**発足宣言		
１９３０　　５	ロンドン軍縮会議　浜口首相狙撃事件	**ホーリネス・リバイバル** 内村没		セルギー府主教に
１９３１　　６	満州事変	日本宗教平和会議		
１９３２　　７	満州国建国 五一五事件	宗教家教育家懇談会	上智大学事件	

再臨運動とホーリネス・リバイバル年表

	年月	内村鑑三の活動	中田重治の活動	時代状況
衰退・転換期	1919 大８ ６	1 日午後 聖書研究会 講演会場変更 内村　大日本私立衛生会講堂 8 日午後　講演 内村　大日本私立衛生会講堂 15 日午後　講演 内村　大日本私立衛生会講堂 22 日午後　講演 内村　大日本私立衛生会講堂 29 日午後　講演 内村　大日本私立衛生会講堂	8 日　ペンテコステ大会　柏木聖書学院 12 日　**基督教青年会館借用拒絶事件** 「悪魔退治号」　6/26 664 号	1 日「基督教界の暗流　教会主義と無教会主義」『万朝報』 ヴェルサイユ条約調印　**第一次世界大戦終結**
	7	6 日午後　講演 千葉県東金 13 日夜　説教 神戸日本基督教会 16 日夜　講演　内村 17 日夜　講演　内村 京都平信徒信仰革正会主催 京都基督教青年会館 20 日　聖日集会　　自宅 26 日　祐之、東京帝大医学部合格 27 日　聖日集会　　自宅	1-10 日　日本伝道隊主催 大天幕講演会　大和田銀行支店前空き地　中田・ダイヤ先生・青木幹太 事務所：大阪ホーリネス教会 悪魔退治号 7/10　666 号 千葉県佐倉旅行 R.A トーレー博士来日 17 日　トーレー、聖書学院で講演 20 日トーレー、上海に 25-30 日　基督信徒箱根修養会 箱根堂ヶ島大和屋 日本伝道隊　ウィルクス フリーメソジスト教会　土山鉄次 教界に革正を要し、日本に大リバイバルを要する時なれば切なる御祷告を乞ふ	17 日　警醒社『基督再臨説を廃す』広告が掲載 「猶太の再建と基督の再来」『大観』2-7：内村義堅；『基督再臨説を排す』富永徳磨刊行

	年月	内村鑑三の活動	中田重治の活動	時代状況
衰退・転換期	8	3 日午前　講義　内村 柏木聖書講堂 『内村全集』刊行中止を警醒社に 10 日午前　礼拝　内村 那須大丸温泉 17 日午前　講義　内村 柏木聖書講堂 24 日午前　説教　内村　那須 31 日午前　説教　内村 今井館	「基督再臨説の再燃」8/1 669 号 「偽者の出現」8/7 670 号 3 日　仙台教会で説教 4 日　宮城県遠田郡小塩村で父母の石碑建立　記念会　キリスト教式法会 北海道旅行：小樽の小樽倶楽部で講演 妻あやめはメソジスト婦人会で講演 登別温泉で四泊休養　室蘭組合教会（日野真澄牧師）献堂式 弘前メソジスト教会（山鹿元次郎牧師）で説教 小坂の教会で説教 25-30 日　有馬修養会　有馬温泉 トマス 土山鉄次 御牧碩太郎河辺貞吉 秋山由五郎　多辻春吉　堀内文一	「基督再臨説を批評す」『六合雑誌』39-8：**日高**沈聲；「宗教界の現状及び将来」『新時代』3-8：帆足理一郎 「基督の再臨説騒ぎ」『中央仏教』3-8：小林正盛
	9	7 日朝　講義　内村　今井館 14 日朝　講義　内村　今井館 21 日午後 2 時　講義 講演会を**東京聖書講演会**と命名 「モーセの十誡　総論」 内村　大日本私立衛生会講堂 28 日午後　講義 「モーセの十誡第 1 条第２条」 大日本私立衛生会講堂	岐阜県高山公会堂で説教 北陸地方巡回 11-14 日　銚子修養会　犬吠崎御風館 バチット・ウィルックス　御牧碩太郎 祈祷会・聖書講義・聖別会	26 日基督教同志会発会講演会：富永・久布白直勝・帆足・吉野作造(欠席) オーストリア、サンジェルマン条約に調印
	10	5 日　午後　講義 「モーセの十誡第３条」 大日本私立衛生会講堂 12 日　午後　講義 「モーセの十誡第４条」 大日本私立衛生会講堂 柏木兄弟団有志晩餐会　40 人 19 日　午後　講義 「モーセの十誡第５条」 大日本私立衛生会講堂 23 日「世界の現状と基督の再臨」 千葉町　同盟基督協会会堂 26 日　午後　講義 「モーセの十誡第６条」 大日本私立衛生会講堂	トーレー再び来日 1-10 日　山陽修養会　姫路市大天幕内事務所：姫路メソジスト教会 R.A トーレー博士　京都と呉に寄る トーレーは「きよめは説かない」 「**イスラエル人の為に祈れよ**」10/9 679 号　ユダヤ祈祷団 第 10 回九州修養会　福岡武蔵屋旅館 御牧碩太郎　堀内文一 羽後、ロスアンゼルスの聖書学校留学 27 日　中田 49 歳	

史料１　大正・昭和前半における宣教

	年月	内村鑑三の活動	中田重治の活動	時代状況
リバイバル開始期	11	2 日　午後　講義 「モーセの十誡第７条」 大日本私立衛生会講堂 9 日　午後　講義 「モーセの十誡第８条」 大日本私立衛生会講堂　500 人 16 日　午後　講義 「モーセの十誡第９条」 大日本私立衛生会講堂 23 日　午後　講義 「モーセの十誡　第 10 条」 大日本私立衛生会講堂 27 日　午後１時　長尾半平宅 東京聖書研究会婦人懇親会 夜　柏木兄弟団有志晩餐会　芝浦 30 日　午後　講義 「律法と福音の関係」 大日本私立衛生会講堂	唐津・下関・赤穂・神戸・態内を巡回 16 日　**淀橋教会徹夜祈祷会：**秋山由五郎、柘植不知人、小原十三司、鈴木仙之助　17 日夜明けに開始 17-20 日　信州飯田で聖会 21-23 日　三日間の断食祈祷会 悔い改めときよめの体験 中田は赤穂から急遽上京 在京のホーリネス教会に動員令 28 日金曜日　**神田教会で聖別会** **リバイバル状況が東京の諸教会に広がる** 30 日―関西：岡山から香川旅行	救世軍本営、神田に成り開館式 日本メソジスト教会による大成運動開始
リバイバル展開期	12	7 日　午後　講義 「罪の赦し」大日本私立衛生会講堂 11 日ユダヤ人問題研究講演会：東京聖書学院　内村「月足らぬ者」 14 日　午後　講義 「完全なる救拯」 大日本私立衛生会講堂 20 日　午後　東京聖書講演会婦人懇親会　今井館　　50 人 21 日　午後　講義 「ベツレヘムの星」 有志のクリスマス晩餐会 大日本私立衛生会講堂 24 日　午後 6 時 柏木兄弟団クリスマス晩餐会 27 日　東京聖書研究会の学生と労働者約 40 人を招いて懇親会 柏木青年会を結成 28 日　説教　ローマ書 12:12 斉藤梅吉宅　30 人 30 日　クリスマス献金 400 円を欧州戦争罹災者のためにフンチカーに託す	**リバイバルが札幌、小坂、仙台、桐生、大阪などに広がる** 1-4 日 神戸イエス･キリスト教会で説教司会：青木澄十郎 6 日―福岡九州学院で説教 長崎の東山学院・日本基督教会で説教 長崎池田屋宿泊 活水女学院で羽後の独唱後に説教 5-7 日　東京聖会　新橋教館 ウィルクス師　主催：城南信徒団 11 日　午後 7 時　**ユダヤ人問題研究会** 柏木聖書学院　　400 人 内村・中田・藤井武・車田・ワイドナー **イスラエル号** **28 日―　神田教会の聖別会** 秋山・土肥修平・柘植 奈良、岡山県玉の献堂式、丸亀、伊勢の津など 除夜祈祷会　300 人	日本メソジスト教会による大成運動宣言公布

	年月	内村鑑三の活動	中田重治の活動	時代状況
リバイバル展開期	1920 大９ １	2 日　新年会　今井館　「メサイア」 4 日　午後 2 時　講義「詩篇８篇」 大日本私立衛生会講堂 11 日　午後　講義「ダニエル書１章」　大日本私立衛生会講堂 12 日　午後　妻とルツの墓参り 18 日　午後　講義「ダニエル書２章」大日本私立衛生会講堂 21 日　モアブ婦人会　自宅 25 日　午後 講義「ダニエル書２章」 大日本私立衛生会講堂	1-5 第 22 回**新年聖会**　淀橋教会「説教者の説教よりも末日の**リバイバル**の起らんがため祈祷に集中する積り故敢て説教者の名を公表せず」 P.ウィルクス、小島伊助、秋山由五郎 **大阪、札幌、桐生にリバイバル** 6-18 日　仙台聖別会：中田　塩崎逸野 25-2/1 **人心改造運動福音宣伝大会** 長崎銀屋町メソジスト教会 星野行中(聖公会)・米田豊(メソジスト) 柘植・小原・中田	国際連盟成立 13 森戸辰男東大教授筆禍事件
リバイバル最盛期	2	日曜午後　講義「ダニエル書」 大日本私立衛生会講堂 10 日**「信仰復興の真偽」『聖書之研究』**716 10 日　東京聖書講演会帝国大学出身者の会食懇話会　四谷三河屋 18 人 11 日　学術講演会 星野鉄男　内村「天文学上より見たる夜のなき世界」今井館	3-5 日　有馬有志祈祷会 御牧・秋山・河辺・堀内・竹田・ウィルクス 6-8 日　大阪ホーリネス教会 8 日夜　神戸湊川伝道館 15-22 **リバイバル伝道会** 淀橋教会 中田 山形修養会　中田・菅野・小原 香澄町ホーリネス教会 「ホーリネス教会ペンテコステ的大聖会にいたしたく願って居ります」	
	3	「ダニエル書」講義　内村 60 歳 住友寛一の結婚問題で藤井武去る	14-18 上諏訪聖会 秋山・柘植・小原 17　ホーリネス教会第３年会 26-30 **日本全国リバイバル大祈祷会** 700 人以上　聖書学院　大天幕 「全き聖潔と主の再臨を信ずる人のみに招待状を発する積である」 中田・御牧硝太郎・小島伊助・ウィルクス・車田秋次・堀内文一　超教派：日本伝道隊・日本自由メソジスト教会・日本アライアンス教会・日本基督教会・日本メソジスト教会・日本組合基督教会・日本聖公会・日本美普教会・ヘフジバ・ミッション　朝鮮人・中国人・英米人・スウェーデン人も出席　**「リバイバル大会宣言」採択**	13 尼港事件 28 市川房枝ら新婦人協会を設立
	4	星之友会開催 17 日「聖書の立場より見たるキリストの再臨」18 日「基督再臨の二方面」摂津西之宮での講演 25 日「ヨブ記」講義	14 日　**作西リバイバル大会** 津山　組合教会 予定変更して朝鮮旅行 23 夜―25 日　修養会 光州ホーリネス教会　7-80 人	15 同志社大学設立認可

史料１　大正・昭和前半における宣教

	年月	内村鑑三の活動	中田重治の活動	時代状況
リバイバル最盛期	5	「ヨブ記」講義 「ペンテコステの出来事」『聖書之研究』238	12-18 日　**関西リバイバル大会** 神戸イエス・キリスト教会　秋山・河辺・竹田・御牧・青木・中田・堀内 18-22 日　**中京リバイバル大会** 名古屋市中区中央教会 秋山・河辺・御牧・中田等 23-30 日**リバイバル運動天幕伝道大会** 神田諏訪町神田警察署近辺　中田等	2 日本最初のメーデー 日本基督教会連盟、朝鮮問題等についての宣言書発表 15　友愛会・信友会など 15 団体、労働組合同盟会を結成
	6	「ヨブ記」講義	福島、東北、信越等に巡回　胸部に痛み	マルクス『資本論』
	7	20 日全国協同伝道信徒修養会　箱根 「新約聖書大観」　弟子から反対		
	8	長男祐之と十和田湖旅行 『山上の垂訓に関する研究』	中田・柘植による北海道巡回：小樽・札幌・野付牛・網走・釧路等 札幌で浅見仙作(無教会)と会堂 11-15 日**北海道リバイバル大会**北一条教会 ジョン・バチェラー(アイヌ伝道) 25-30 日　有馬修養会	
リバイバル衰退期	9	木曽、諏訪に伝道 「ヨブ記」講義 『モーセの十誡』	3-7 日　修養会　　銚子御風館 21 日　リバイバル運動第二回天幕大伝道会　東京本郷３丁目 22 日　**中田、米国巡回旅行**	
	10	「ヨブ記」講義 黒岩涙香の葬儀に参列		3 日　賀川豊彦『死線を越えて』刊 5-14 日　第８回世界日曜学校大会　日本禁酒同盟成立
	11	「ヨブ記」講義 湯河原滞在	12 日　渡米の途「東洋宣教会ホーリネス教会員に告ぐ」ホーリネス教会の統計：正会員 2000 人、教会数約 70、献金額一人 13 円強　　目標：全自治	
	12	「ヨブ記」最終講義 警醒社と和解		大杉栄ら日本社会主義同盟創立
	1921 1	「ローマ書」講義　聖書研究会		
	2	「ローマ書」講義		
	3	「ローマ書」講義　『婚姻の意義』 今井館日曜学校開始		
	4	「ローマ書」講義		
	5	「ローマ書」講義	第二回日本全国リバイバル大会	

史料２　リバイバルまでの『聖潔之友』の内容

	社　説	説　教	聖書教育	信徒のあかし
1919 大 8 1/2 ・639	羊の年　新規蒔直し	ホーリネス 「我清ければ汝等も**聖潔**あるべし」「**人もし潔からずば主に見えゆることを得ざるなり**」	想苑：新しき年を迎ふ「再臨の希望」：「悔改と信仰」我らの使命　泉田生：「四重の福音を宣伝すること」講解：ヨハネの手紙第一　山崎亨治　再臨　聖山賢治郎	
4/17/654	伝道号　基督もしよみがえらざりしならば	説教　新しき人	想苑：完全な救　山崎亨治 日曜学課　我らを助けたもう聖霊　教理　受洗まで	「真宗より基督へ原勝治」「大なる救の証詞　多胡寅治郎」「我が宗教的経験　高井精吉」「春の伝道旅行　UN 生」
4/23/655	伝道旅行雑感	説教　**リバイバル**を見ん　小原十三司「**リバイバル**とはよみがえり、復活、復興、回復、再興の意味である」「これから私は何年生きるか知ら無いが、私の生きて居る間に一回でも**リバイバル**を欲しいものであると思ってこれがために祈って居る」	研究　ホーリネス　聖霊とは何ぞや：講解　ヨハネ第一　山崎亨治：論証　祈祷と犠牲	伝記　ジョン・スミス 求祷　中田重治
5/1/656	内村氏の基督教青年会館における講演問題	説教：豊かなる生命	講解：ヨハネ第一書	経験：「苦き杯」試練から回復　聖山賢治郎
5/15/658 伝道号	説教：凡ての人の受くべき救(悔い改めと信仰)	論説：良心の宗教 日曜学課：悔改 想苑：国技館の倒潰は何を教ふるか　聖山賢治郎	教理：洗礼まで	実験：絶望より救はる　斉藤縁芳
5/22/659	教会の革正の時来れり	論説：伝道法の改革 日曜学課：信仰	説教：祭壇の生涯 講解：ヨハネ第一書　山崎	証詞：「神の試練」いやし　本郷義雄
6/5/661	ペンテコステと収穫	研究：ホーリネス　**聖潔**とは何ぞや 日曜学課：祈祷	想苑：日々の教示　小原 講解：ヨハネ第一書　山崎	
6/12/662	青年会館借用拒絶事件(８日の使用禁止)	論説：「**リバイバル**の精神」三井生「我等をして祈らしむる動機」TY 日曜学課：愛	講解：ヨハネ第一書　山崎	想苑：「大に優れたる能力」　野僕「天国民となる為め覚醒せよ」矢富照星

史料２　リバイバルまでの『聖潔之友』の内容

	社　説	説　教	聖書教育	信徒のあかし
6/19/663 伝道号	今は恵の時なり今は救の日なり	論説：日本を毒したる仏教　説教：悔改と赦罪	教理：受洗迄	実験「天窓の恩澤」献金の恵　証詞：「救はれ癒された証詞」井上幸枝「日蓮よりも能力ある基督」TY「カンテラの光と太陽の光」農民「小坂青年会員の証詞」救いの証
6/26/664	予の見たる内村氏の無教会主義	論説：改正の人、耶蘇 三井生想苑：**リバイバル**の要素　日曜学課：教会	講解：ヨハネ第一書 山崎	実験：「聖霊を受けし実験」**聖化**　野口らく
7/3/665	**聖潔**の敵は罪である	研究：ホーリネス　**聖潔**とは何ぞや　想苑：**リバイバル**の要素２：日曜学課：洗礼	「ペンテコステ前後の弟子」山口生講解：ヨハネ第一書　山崎	
7/10/666 悪魔退治号	悪魔と縁切　教会内の悪魔	論説：不信と懐疑と自己満足(時代思想の特徴)研究：666 の数(神に逆らう者の数)　日曜学課：主の晩餐	想苑：**リバイバル**の要素３「**リバイバル**のために祈るべきである」神癒	
7/17/667 伝道号	此外別に救あることない	論説：農村と基督教 日曜学課：信者の交際	「働く為の休息」素冠人	実験：「罪悪と病より救はる」原惣一「歓喜と希望の生涯に入る」西牧一
7/24/668	トーレー博士来れり	説教：焼尽す霊　山崎 研究：ホーリネス　**聖潔**とは何ぞや　「**如何にせば聖めらるるや**：TY 日曜学課：礼拝	論説：此邪成る世 講解：ヨハネ第一書 山崎	感想：「恩寵の十年」伊藤文康　実験「致命的疾患より救はる」渡部正
8/1/669	基督再臨説の再燃/大に伝道志願者を募集す	講演：「聖霊の職務」　トーレー　教理：**聖潔の確証**　日曜学課：他人を基督に導く事「聖い義しい行いをするとき」「**潔められ**聖霊に充たさるべきである」	想苑：霊戦 講解：ヨハネ第一書 山崎	通信「三たび父の病床に侍して」神癒　三井生
8/7/670	箱根修養会 偽者の出現：「宮崎仏陀メシヤ」	雑報：箱根修養会記「日本の**リバイバル**といふ事を中心として・・祈祷が献げられた」　日曜学課：世界中の人々にエス様をお知らせする事	講解：ヨハネ第一書 山崎「基督者の７つの特権」車田	証詞：「只管なる祈祷に由りて得たる**聖潔**の恩恵」聖化諏佐喜雄太

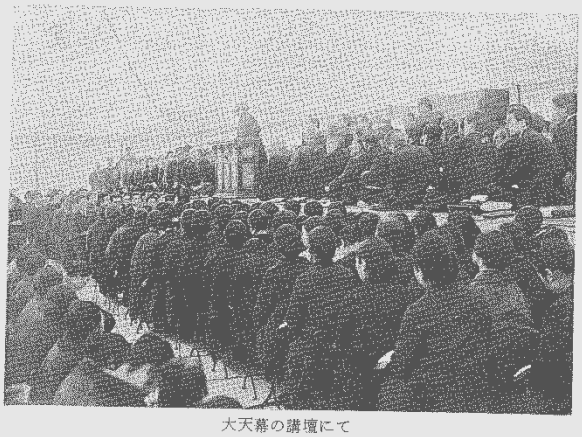
	社　説	説　教	聖書教育	信徒のあかし
8/14/671	金か人か/何故**聖潔**に反対するか(カルビン派批判)	論説「平信徒の奮起」幼鷲「日本に要する**リバイバル**も平信徒の新しき徹底せる経験に始り臆面もなく聖霊の感動によって福音は宣伝さられ祈祷の霊に動かされ飽迄も前進的に勝を得る時の来たらん事これ余の明暮れ望む処の**リバイバル**である」 日曜学課：誰にでも親切をする事	講解：ヨハネ第一書　山崎	証詞：「**聖潔の恵**」**聖化**　クララ　通信：３箇所
8/21/672 伝道号	信じるなら純福音を信ぜよ	日曜学課：節制	教理：新生　西条彌一郎	経験：「仏教よりキリスト教へ」救い　亀谷凌雲「私しも限りなき救の喜を得て」救い　関口文作
8/28/673	ラオデキヤ教会の異端/婦人の伝道「聖霊に感じたる者は男女を問ず語るべきである。予は婦人の聖職を信じ、婦人の牧師も伝道者もあるべきものなる事を信ずる」	論説：聖書と**聖潔** 山崎 想苑：「友情と歓喜」「自省自戒」 日曜学課：神の国	講解：ヨハネ第一書　山崎 緑蔭独語：「感激のない宗教、これは死んだものだ」「平信徒の小さき日毎の歩みは其教会の建設に驚くべき価値を有するものである」TY	通信４
9/4/674	贖罪の目的	講演：内住の基督　ウィルクス 日曜学課：死んでから後	緑蔭独語：霊的再臨と肉体的再臨	「恩寵の回顧」救い・聖化・神楡　葛西「小さい天使」聖化　大西龍磨雑録４
9/11/675	基督教改造運動批判	講演：再臨と我等の責任ウィルクス 日曜学課：聖書はどんな本か	緑蔭独語：再臨と復活	「霊戦の跡」伝道ST 「手帳の中より」中島真一「修養会に就ての所感」２
9/18/676 伝道号	森村翁の永眠	説教：人を尋ぬる神	教理：神の子の自覚・救い・洗礼の意義	「筆に任せて」恵知園

史料２　リバイバルまでの『聖潔之友』の内容

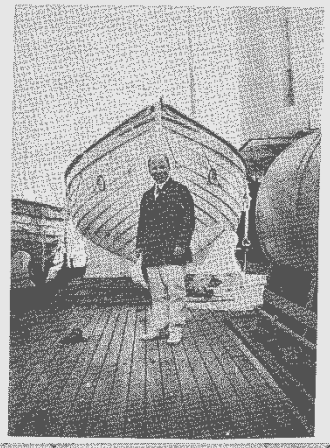
	社　説	説　教	聖書教育	信徒のあかし
9/25/677	来るべき山陽修養会「我等は何の集会に出ても願ふことは長らく祈り求めし**リバイバル**が其集会から始められん事である」	説教：神の要求としての歓喜　MG「救はれ**聖潔められ**聖霊に満たされて初めて神の要求なし給ふ様な喜悦びが我が心中に湧き出づるのである」「喜悦は信仰の寒暖計である」「常に喜ぶべしとの果は実に**聖潔**と再臨の信仰より生ずる果である」		「筆に任せて」「密室手記」ゆふえん生 雑録２　教勢５
10/2/678	死なざれば生きず「**聖められる**とは根本的に変化することである」「社告 来る 12 月 7 日は全世界に於ける基督者が特別**ユダヤ人のために祈る**日に有之候」	想苑：「かくして我が飢渇は満たされぬ」MY 随筆：慰安の源泉 日曜学課：漁夫	講解：ヨハネ第一書 山崎	巡回記：飛騨入り「近県旅行」山崎 教勢：浅草通信など４
10/9/679	疾病問題/**イスラエル人の為に祈れよ**「本紙の主筆は**イスラエル人の為に祈る**祈祷団の日本会長に選まれ神田教会の野畑牧師は其副会長となられ毎月第一木曜日の夜祈祷会を開き此問題につきて研究して居る」	論説：再び日本教化に就きて「第一に障害となって居るものは宣教師や伝道者や牧師や信者が福音を充分体得して居らぬ事である・・・先づ福音の吾人に提供する凡ての恩恵を体得し、これを他人の要求に応じて分配することである」特に困難な北陸伝道に対して、①代理制度によらない②会堂と墓地を有する③其土地の人情を理解してこれに同情し得る人を伝道者として遣わす④永久的に伝道する　説教：神の要求としての祈祷と感謝 MG　説教：神の要求としての起用と感謝「要は**聖潔めらるる**ことに由りて常に喜び、絶えず祈り、凡て事感謝することが出来る」	想苑：慰め主なるキリスト　矢富照星	「かくして我が飢渇は満たされぬ」MY 教勢：４ 「淀橋便り　９月 17-21 日の伝道会５日間 810 人一日平均 162 人　悔い改め者 33 人(記名した分)　聖別会５日間 813 人一日平均 163 人被聖者 70 人　献金５日間で 235 円」

	社　説	説　教	聖書教育	信徒のあかし
10/16/680 伝道号	宗教的要求の満足 ３ページ「人間は到底真正の宗教無しに満足すべきものでは無い」			実験「驚くべき救」安新次郎２ページ「堅き磐の上に」宮下長 教勢：淀橋　青山など３
10/23/681		説教：救霊の要件(上)トーレー「①凡ての罪をふりすてる事②神に対して全く服従する事③イエス・キリストの死を全く私共の立場として信頼する事④日々の生涯に勝利を得んために復活の主を信ずること 日曜学課：禁酒学課	論説：自発的宗教「信者が聖霊に満たされて、**潔き**能力ある生涯を送り聖霊の御助に由りて他人をして求道心を起さしむる底のもので無くてはならぬ」 講解：ヨハネ第一書 山崎	実験：結核性腎臓炎より癒さる　福本清子 巡回記：山陽修養会行　中田「100数十名の悔改者日の本女学校の生徒の大多数が救はれ**潔められた**(姫路天幕伝道)二度とも満堂の聴衆(呉ホーリネス教会特別伝道会)　教勢：小樽
10/30/682	降誕節の全廃 「①クリスマスは12月25日ではない②祝い方は益々俗化し底止することを知らない状態である③日曜学校の生徒に種種の芸を仕込んで人前に出す事は教育上よろしくない」「断じてクリスマスを全廃し、他人から極端に思はれてもよい、クリスマスに関係せぬようにすべきである」	説教：**聖潔**と祈祷(**リバイバル**の体験) 論説：基督者の雅量 心の宗教 講演：救霊の要件(２)①種をたづさえる事②涙を流す事③出て行く事 求祷：九州での講演会のため 想苑：健全なる基督者①祈り②**潔い**良心③近き者に感化を及ぼす④謙遜⑤愛⑥犠牲の生涯⑦神に対する絶対の服従		教勢２

中田　重治　（壮年時代）



大天幕の講壇にて



渡米船中にて

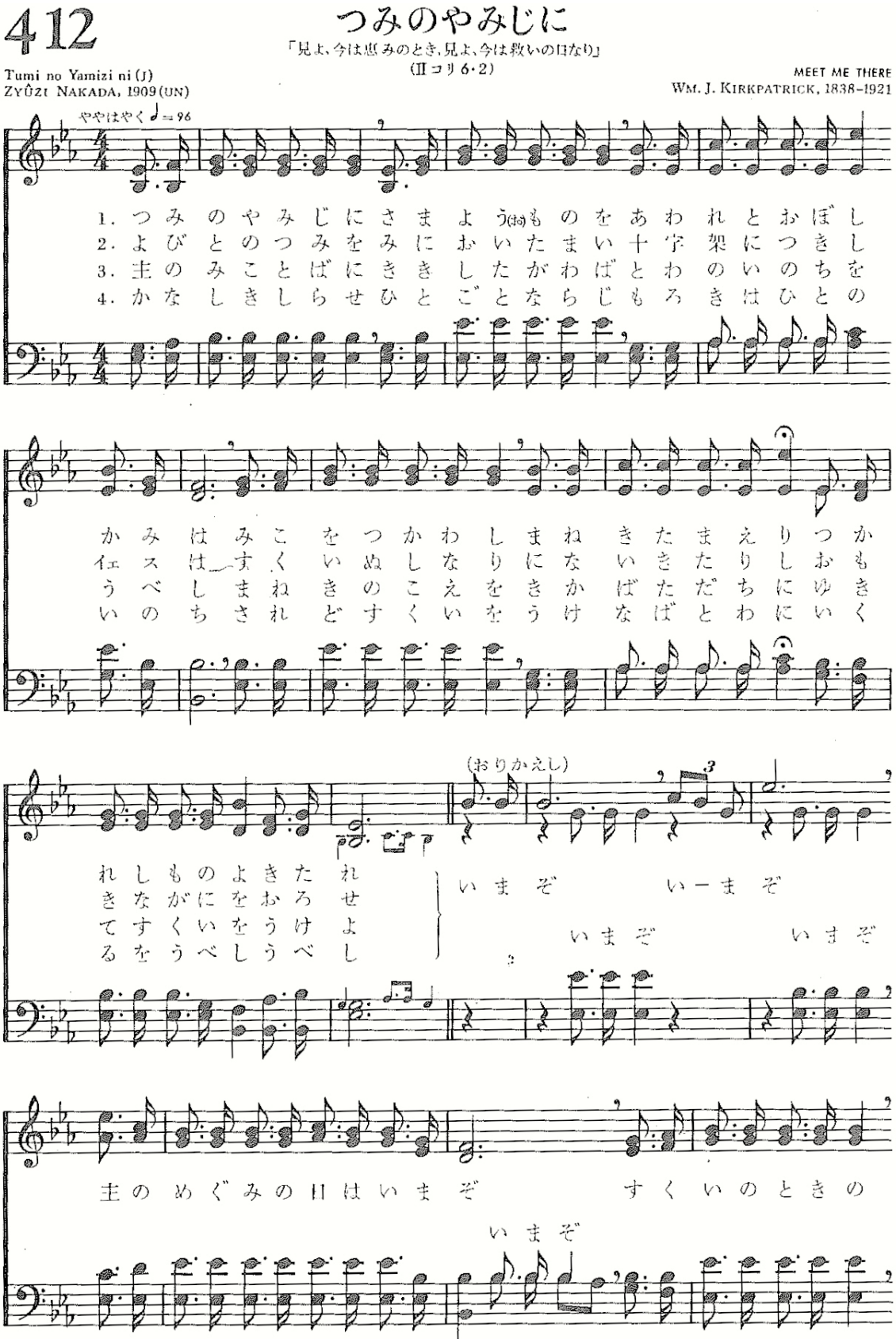
中田巡回記念（八戸にて）

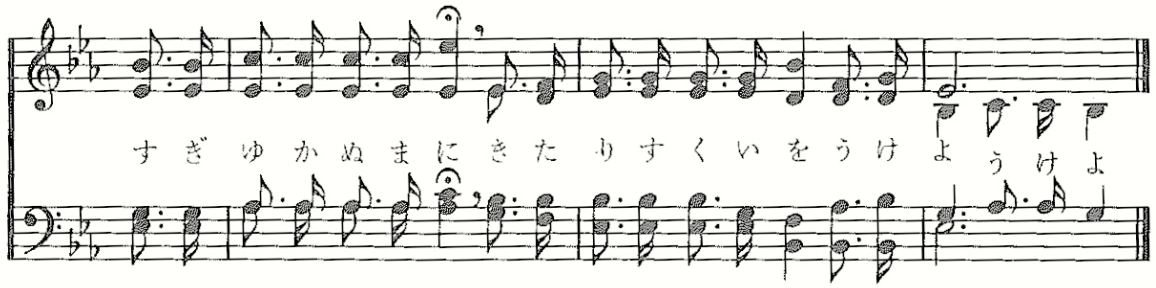
中田一家（男児は羽後、女児はムツ、京、リリ）

聖書学院の生徒と（中田の右は米田豊教授、左は竹内かつ舎監）出典：米田勇『中田重治伝』福音宣教　1959 年

――――『中田重治全集』第 1･7 巻 いのちのことば社　1974-5 年

聖　歌


412
つみのやみじに
「見よ、今は恵みのとき、見よ、今は救いの日なり」
(IIコリ6・2)
Tumi no Yamizi ni (J)
ZYÛZI NAKADA, 1909 (UN)
MEET ME THERE
WM. J. KIRKPATRICK, 1838–1921
ややはやく ♩=96
1. つみのやみじにさまよう(おう)ものをあわれとおぼし
2. よびとのつみをみにおいたまい十字架につきし
3. 主のみことばにききしたがわばとわのいのちを
4. かなしきしらせひとごとならじもろきはひとの
かみはみこをつかわしまねきたまえりつか
イェスはすくいぬしなりにないきたりしおも
うべしまねきのこえをきかばただちにゆき
いのちされどすくいをうけなばとわにいく
れしものよきたれ
きながにをおろせ
てすくいをうけよ
るをうべしうべし
(おりかえし)
いまぞ　いーまぞ
いまぞ　いまぞ
主のめぐみの日はいまぞ　すくいのときの
いまぞ

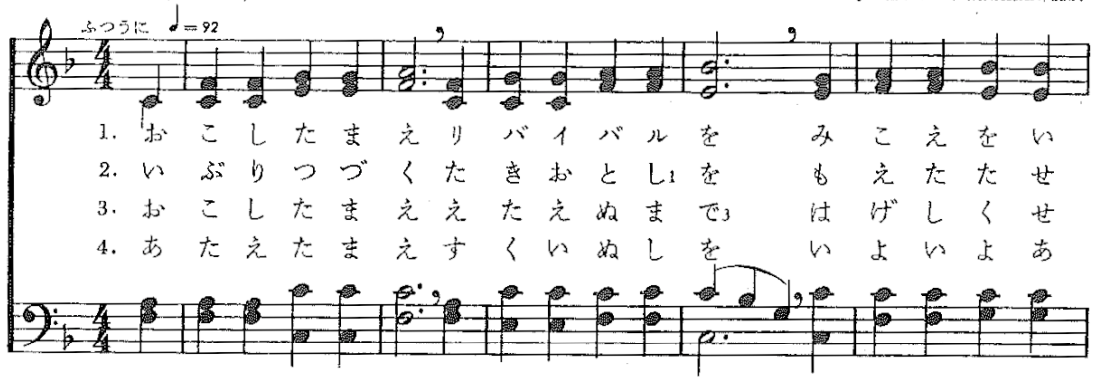


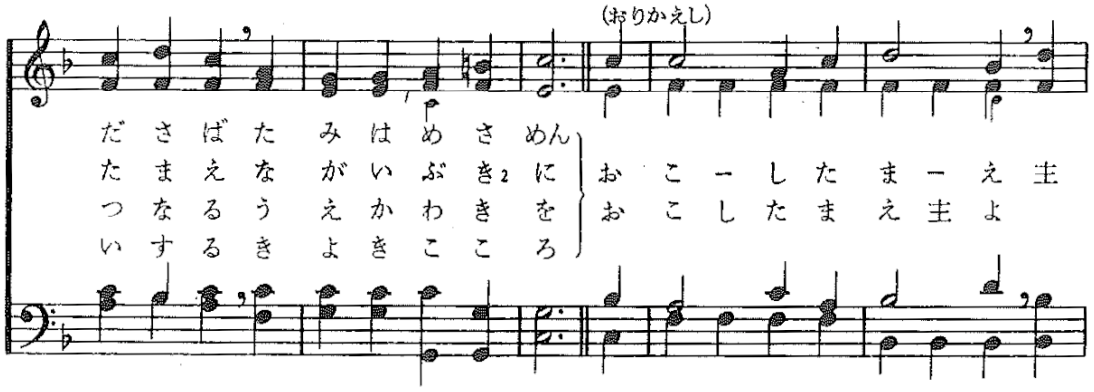
569 おこしたまえ

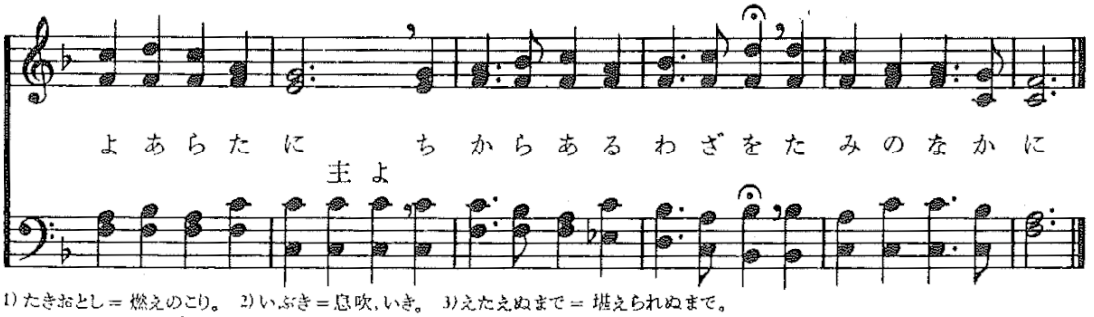
「なんじのわざを生きはたらかせたまえ」
（ハバ 3・2）

Revive Thy work, O Lord
ALBERT MIDLANE, 1887 (UN)

REVIVE THY WORK
JAMES McGRANAHAN, 1887







1) たきおとし＝燃えのこり。 2) いぶき＝息吹，いき。 3) えたえぬまで＝堪えられぬまで。

「モーセの五書が指し示す福音」

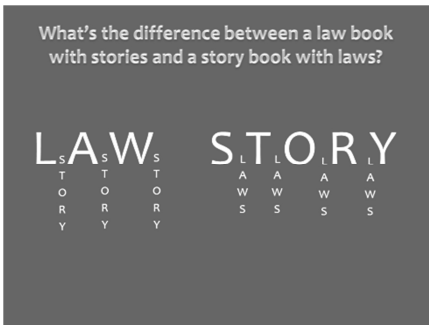
セツ・ポステル（イスラエル聖書大学教授）

通訳：中川健一

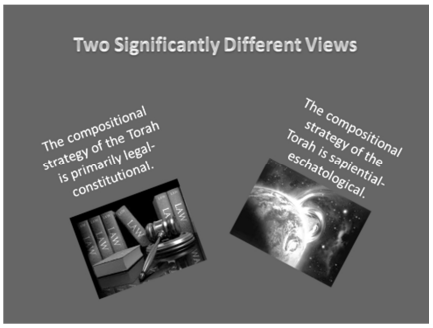
スライド

1. 「モーセによる福音」
   ＊トーラーは、いかにしてメシアの到来と新約を指し示しているか。

2. トーラーとは、どのような本なのか。
   ＊物語を含んだ律法の書か？
   ＊律法を含んだ物語の書か？



3. 物語を含んだ律法の書と、律法を含んだ物語の書には、どのような違いがあるのか？



4. 両者の見解には、大きな差がある。
   ＊トーラーの組み立ては、第一義的には法律的・立憲的なものである。
   ＊トーラーの組み立ては、文学的・終末論的なものである。

5.　ほとんどの人が認めている前提がある。

＊トーラーは、律法の書であり、

＊イスラエルの国家憲法であり、

＊シナイ契約の条項である。

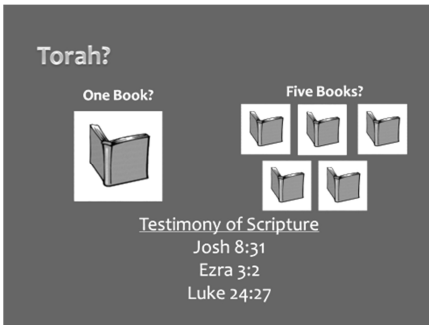
6.　この前提は、正しいのだろうか？

トーラーの形態、組み立て、内容などは、それを証明しているのだろうか？

引用（Michael Fishbane, Biblical Interpretation in Ancient Israel, 91.）

「律法を研究する学者たちが昔から認識していることであるが、律法はその一部であれ全体であれ（出 21～23 章の律法、レビ 17～26 章の神聖法、申 12～26 章の律法）、それだけでは、律法の積極的な運用のために必要とされる諸分野を十分に取り扱っているとは言えない」

7.　基本事項の確認



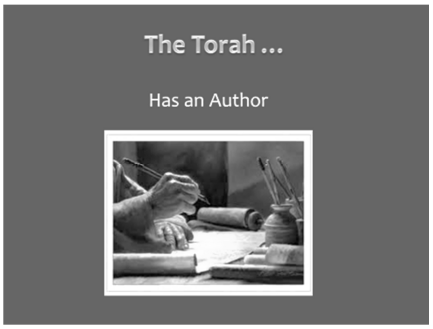
8.　トーラーとは？

＊1 冊の本か？

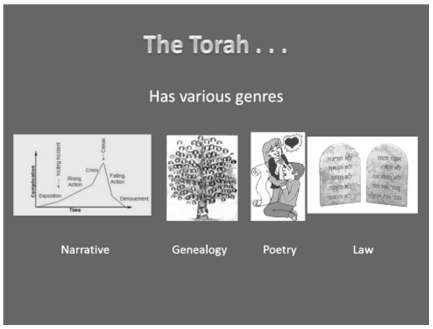
＊5 冊の本か？

＊聖書の自己証言

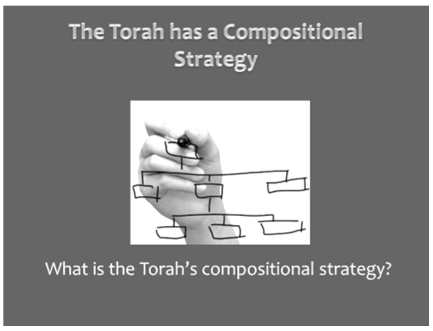
- ヨシ 8：31　「モーセの律法の書」
- エズ 3：2　「神の人モーセの律法」
- ルカ 24：27　「モーセおよびすべての預言者」



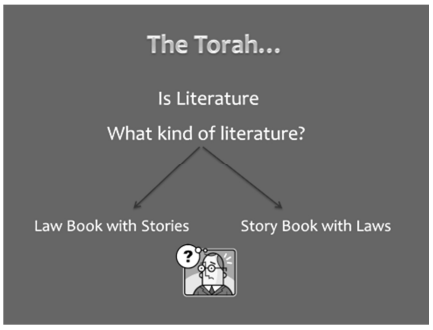
9. トーラーには：
＊著者がいる。



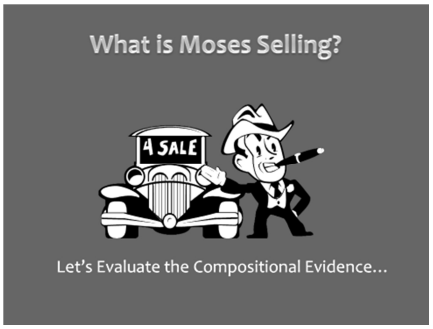
10. トーラーには：
＊さまざまな分野がある。
・物語
・系図
・詩歌
・律法



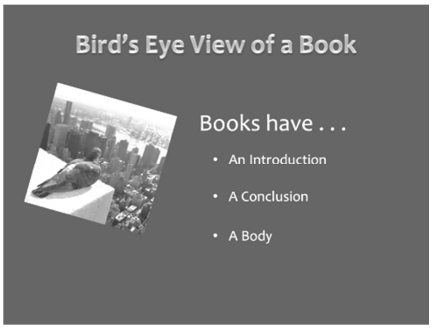
11. トーラーには構成上の戦略がある。
＊では、その戦略とはどのようなものか？



12. トーラーは文学作品である。
＊では、どのような文学作品か？
・律法の書（物語を含む）
・物語の書（律法を含む）



13. モーセは、何を売り込もうとしているのか？
＊トーラーの構成上の証拠を調査してみよう。



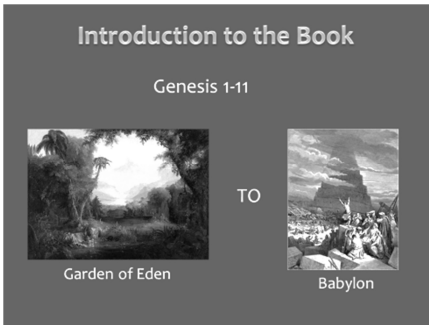
14. この書の鳥瞰図

＊トーラーには、以下の要素が含まれている。

・イントロダクション

・結論

・本文



15. イントロダクション

＊創 1〜11 章

＊エデンの園→バビロン

16. アダムはイスラエルの象徴：イスラエルがシナイ契約に違反することは予測されている。

＊創 1〜2 章

・約束の地

・征服せよとの命令

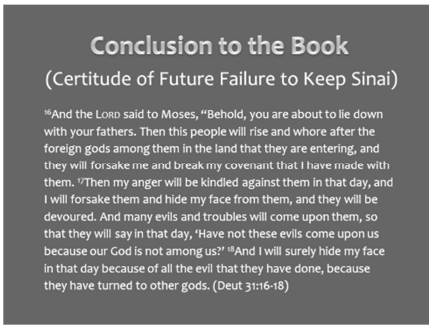
・シナイ契約

＊創 3 章

・「その地の住民」による欺き

・契約違反

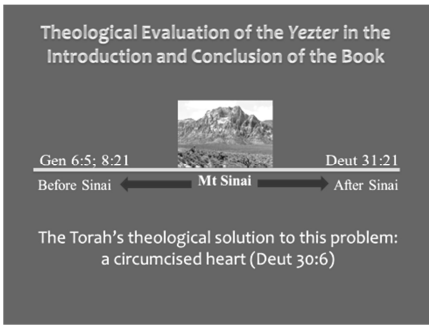
・国外追放



17. 結論：

イスラエルがシナイ契約に違反するのは確実である。

【主】はモーセに仰せられた。「あなたは間もなく、あなたの先祖たちとともに眠ろうとしている。この民は、入って行こうとしている地の、自分たちの中の、外国の神々を慕って淫行をしようとしている。この民がわたしを捨て、わたしがこの民と結んだわたしの契約を破るなら、その日、わたしの怒りはこの民に対して燃え上がり、わたしも彼らを捨て、わたしの顔を彼らから隠す。彼らが滅ぼし尽くされ、多くのわざわいと苦難が彼らに降りかかると、その日、この民は、『これらのわざわいが私たちに降りかかるのは、私たちのうちに、私たちの神がおられないからではないか』と言うであろう。彼らがほかの神々に移って行って行ったすべての悪のゆえに、わたしはその日、必ずわたしの顔を隠そう」（申 31：16〜18）

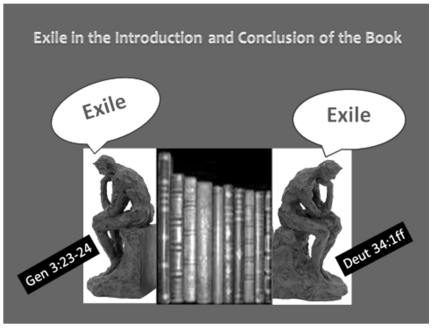


18. トーラーのイントロダクションと結論に登場するイェツェル（悪への傾向）という概念：その神学的評価

シナイ山以前 ← シナイ山 → シナイ山以降

創 6：5、8：21	申 31：21
「心に計ること」	「たくらんでいる計画」

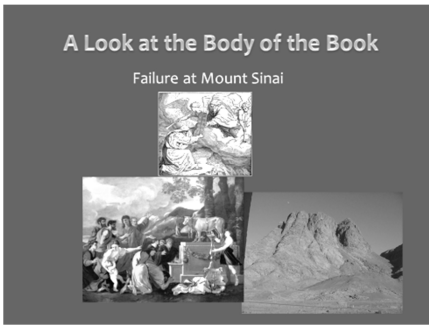
トーラーが提示する神学的解決法：「心の割礼」（申 30：6）



19. 国外追放は、イントロダクションと結論に出て来る。

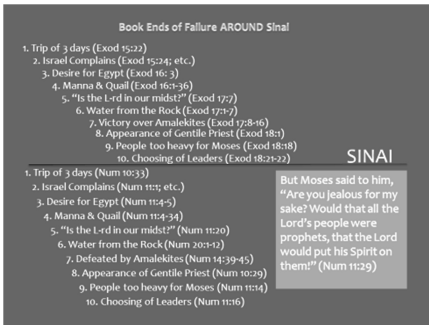
＊創 3：23〜24

＊申 34：1 以降



20. では、本文を見てみよう。

＊シナイ山での失敗



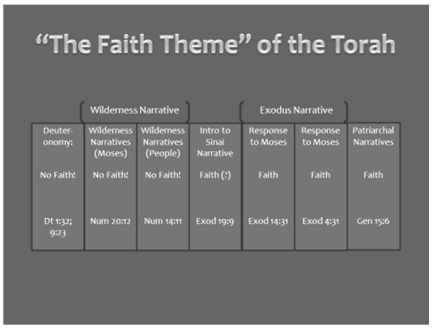
21. シナイ山の前と後での失敗物語

①3 日の旅（出 15：22）
②イスラエルの民のつぶやき（出 15：24、など）
③エジプト帰還の願い（出 16：3）
④マナとうずら（出 16：1〜36）
⑤「【主】は私たちの中におられるのか」（出 17：7）
⑥岩から出る水（出 17：1〜7）
⑦アマレクに対する勝利（出 17：8〜16）
⑧異邦人祭司の出現（出 18：1）
⑨民はモーセにとって負いきれない重荷となる（出 18：18）
⑩リーダーの選抜（出 18：21〜22）

――――――――――――シナイ山――――――――――――

①3 日の旅（民 10：33）
②イスラエルの民のつぶやき（民 11：1、など）
③エジプト帰還の願い（民 11：4〜5）
④マナとうずら（民 11：4〜34）
⑤「【主】は私たちの中におられるのか」（民 11：20）
⑥岩から出る水（民 20：1〜12）
⑦アマレクに敗北（民 14：39〜45）
⑧異邦人祭司の出現（民 10：29）
⑨民はモーセにとって負いきれない重荷となる（民 11：14）
⑩リーダーの選抜（民 11：16）

しかしモーセは彼に言った。「あなたは私のためを思ってねたみを起こしているのか。【主】の民がみな、預言者となればよいのに。【主】が彼らの上にご自分の霊を与えられるとよいのに」（民 11：29）



22. トーラーの中の「信仰のテーマ」

族長物語　（信仰）　創 15：6

出エジプトの物語

・モーセへの応答　（信仰）　出 4：31

・モーセへの応答　（信仰）　出 14：31

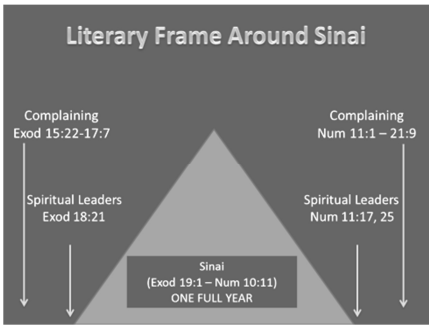
シナイ物語へのイントロ　（信仰？）　出 19：9

荒野の物語

・民　（不信仰！）　民 14：11

・モーセ（不信仰！）　民 20：12

申命記　（不信仰！）　申 1：32、9：23



23. シナイ山前後の文学的構成

つぶやき　出 15：22～17：7

霊的リーダーたち　出 18：21

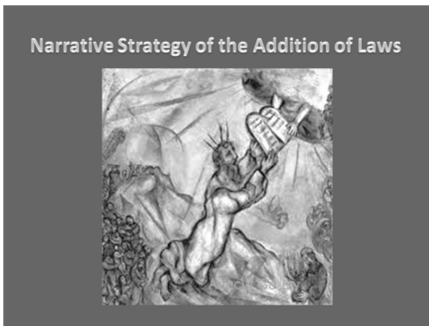
シナイ山：丸 1 年

（出 19：1～民 10：11）

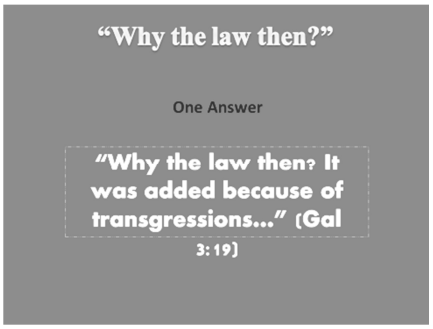
霊的リーダーたち　民 11：17、25

つぶやき　民 11：1～21：9

24. 信仰はどこに？!!



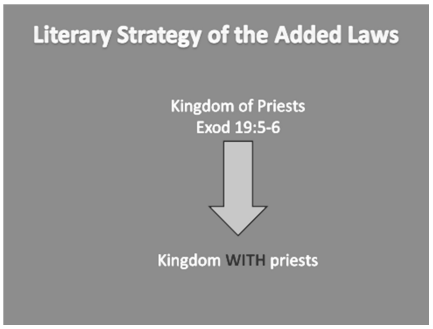
25. 律法を追加する文学的意図



26. 「では、なぜ律法が？」

ひとつの答え

「では、律法とは何でしょうか。…違反を示すためにつけ加えられたもので、…」（ガラ 3：19）

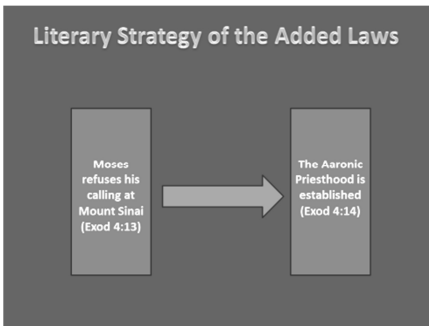


27. 律法を追加する構成上の意図

祭司の王国（出 19：5～6）

↓

祭司を有する王国



28. 律法を追加する構成上の意図

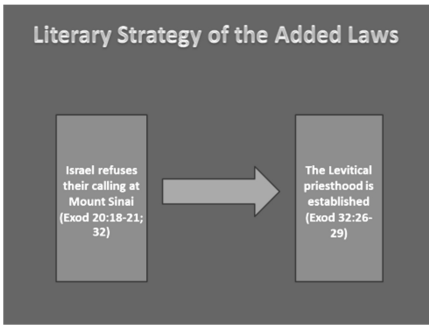
モーセはシナイ山で自分に与えられた召命を拒否した。

（出 4：13）

↓

アロン的祭司制度が起こされた。

（出 4：14）



29. 律法を追加する構成上の意図

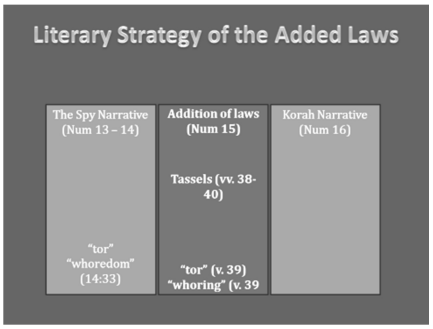
イスラエルはシナイ山で自らに与えられた召命を拒否した。

（出 20：18～21、32 章）

↓

レビ的祭司制度が起こされた。

（出 32：26～29）



30. 律法を追加する構成上の意図

スパイ物語（民 13～14 章）

「tor（探る）」（民 14：34）

「whoredom（背信の罪）」（民 14：33）

↓

律法の追加（民 15 章）

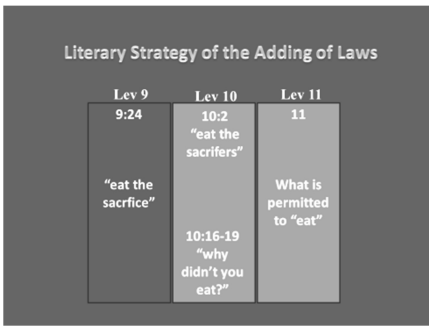
着物のすその四隅に付けるふさ（38～40 節）

「tor（従う）」（39 節）

「whoring（みだらなこと）」（39 節）

↓

コラの物語（民 16 章）



31. 律法を追加する構成上の意図

レビ 9 章

・9：24　「いけにえを焼き尽くした」

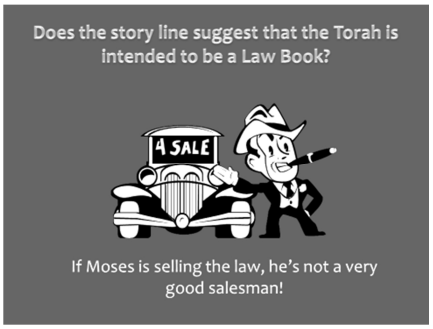
レビ 10 章

・10：2　「捧げる人たちを焼き尽くした」

・10：16～19　「どうして食べなかったのか」

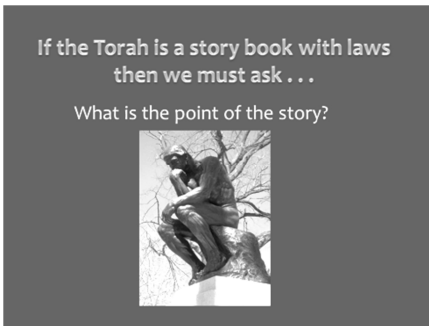
レビ 11 章

・「食べてよいもの」について



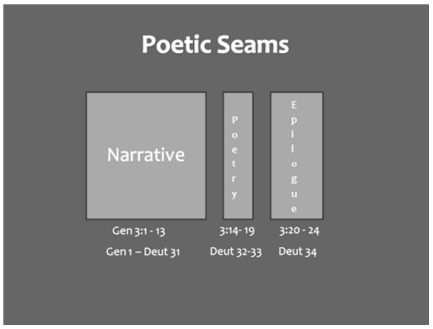
32. 以上の物語の展開から、トーラーは律法の書として書かれたと言えるか。

もしそうなら、モーセは有能なセールスマンとは言えない！



33. もしトーラーが物語を含んだ律法の書だとするなら、いくつかの疑問点がある…。

34. より詳細に、構成上の手がかりを吟味してみよう。



35. 詩的継ぎ目に着目

物語

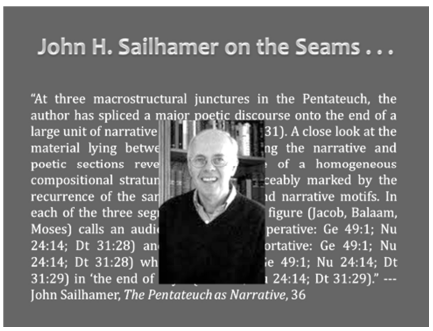
・創 3：1〜13　　創 1 章〜申 31 章

韻文による詩

・創 3：14〜19　　申 32〜33 章

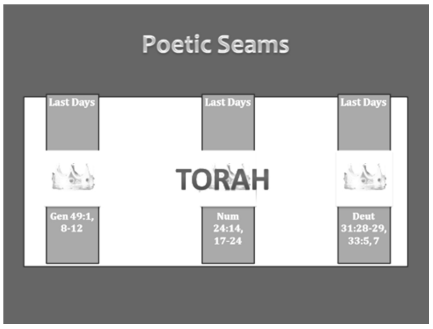
エピローグ

・創 3：20〜24　　申 34 章



36. 引用（John Sailhamer, The Pentateuch as Narrative, 36）

モーセの五書を大局的に眺めると、3 つの大きな接合点がある。著者は、そのすべての接合点で、長い物語の後に韻文による重要なメッセージを配置している（創 49 章、民 24 章、申 31 章）。物語部分と韻文の間にあって両者をつないでいる要素をさらに詳細に観察すると、そこにひとつの共通した構成上の「層」があることに気づく。その「層」とは、同じ言葉とモチーフが繰り返されるということである。3 つの接合点のすべてにおいて、中心人物（ヤコブ、バラム、モーセ）は、聴衆を呼び寄せ（命令形。創 49：1、民 24：14、申 31：28）、将来の出来事を宣言している（ヘブル語文法の奨励形。創 49：1、民 24：14、申 31：28）。それは、「終わりの日」に起こることである（創 49：1、民 24：14、申 31：29）。

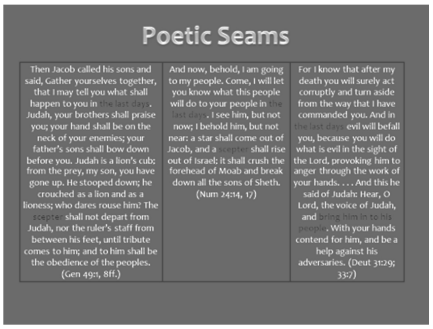


37. 詩的継ぎ目

＊終わりの日　創 49：1、8〜12

＊終わりの日　民 24：14、17〜24

＊終わりの日　申 31：28〜29、33：5、7



38. 詩的継ぎ目

＊創 49：1、8 以降

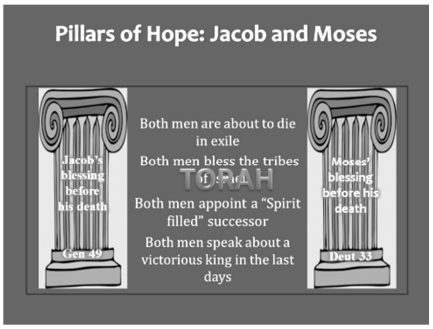
・「終わりの日」　「王権（統治者の杖）」

＊民 24：14、17

・「後の日」　「一本の杖」

＊申 31：29、33：7

・「後の日」　「その民に、彼を連れ返してください」



39. 希望の柱：ヤコブとモーセ

死を目前にしたヤコブの祝福（創 49 章）

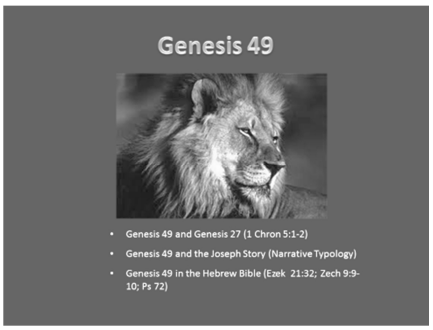
＊両者は、離散の地で死のうとしている。

＊両者は、イスラエルの 12 部族を祝福する。

＊両者は、「聖霊に満たされた」後継者を任命する。

＊両者は、終わりの時に現れる勝利の王について預言する。

死を目前にしたモーセの祝福（申 33 章）



40. 創 49 章

＊創 49 章と創 27 章（1 歴 5：1〜2）

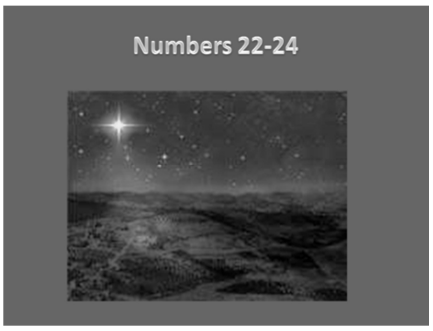
＊創 49 章とヨセフ物語（メシアの型）

＊ヘブル語聖書の中の創 49 章

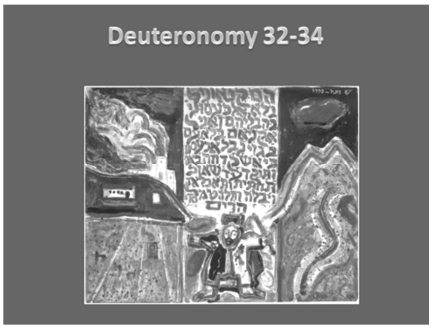
・エゼ 21：32（新改訳では 21：27）

・ゼカ 9：9〜10

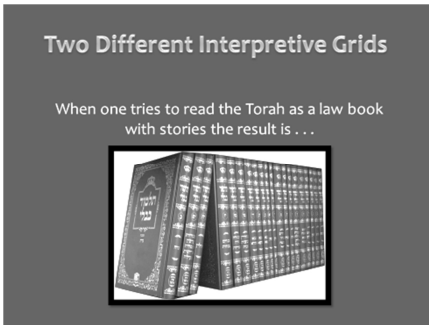
・詩 72



41. 民 22〜24 章



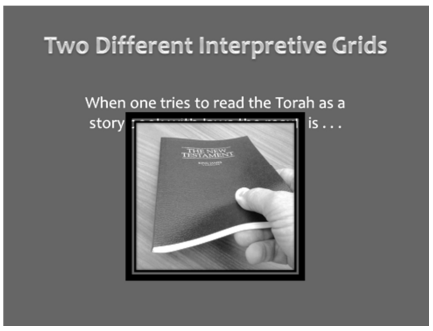
42. 申 32〜34 章



43. 2 つの異なった解釈法

＊もしトーラーを、物語を含んだ「律法の書」として読めば

＊結果は、…



44. 2 つの異なった解釈法

＊もしトーラーを、律法を含んだ「物語の書」として読めば

＊結果は、…

45. トーラーの構成上の戦略

＊人類が持つ性向に関しては、悲観的現実主義である。

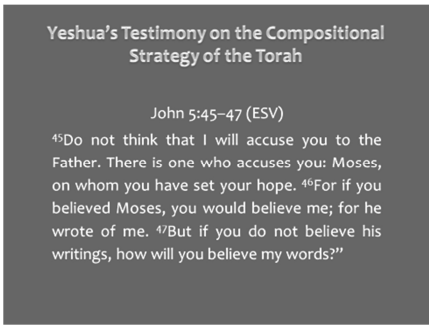
＊イスラエルと諸国に対する神の約束は成就するという預言的期待がある。

＊この約束は、

①来たるべき王と、

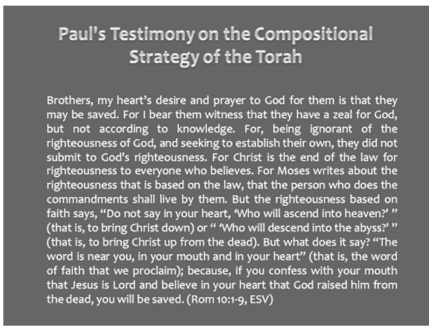
②新約を通して、成就する。

46. 新約聖書によるトーラーの解釈



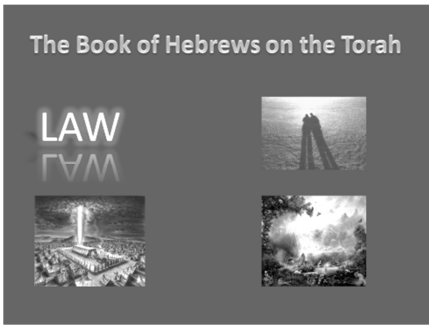
47. イェシュアによるトーラーの構成の解釈

「わたしが、父の前にあなたがたを訴えようとしていると思ってはなりません。あなたがたを訴える者は、あなたがたが望みをおいているモーセです。もしあなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことだからです。しかし、あなたがたがモーセの書を信じないのであれば、どうしてわたしのことばを信じるでしょう」（ヨハ 5：45〜47）



48. パウロによるトーラーの構成の解釈

「兄弟たち。私が心の望みとし、また彼らのために神に願い求めているのは、彼らの救われることです。私は、彼らが神に対して熱心であることをあかします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。というのは、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかったからです。キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。モーセは、律法による義を行う人は、その義によって生きる、と書いています。しかし、信仰による義はこう言います。『あなたは心の中で、だれが天に上るだろうか、と言ってはいけない。』それはキリストを引き降ろすことです。また、『だれが地の奥底に下るだろうか、と言ってはいけない。』それはキリストを死者の中から引き上げることです。では、どう言っていますか。『みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。』これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです」（ロマ 10：1〜9）



49. ヘブル人への手紙とトーラー

「イスラエルの祭りに隠されたメシア」

中川健一

聖書箇所：レビ記 23：1～44

イントロダクション

1. 異邦人クリスチャンとイスラエルの祭り
（1）過越の祭りは知っている。
（2）五旬節の祭り（ペンテコステ）も知っている。
（3）それ以外は、ほとんど知らない。
（4）異邦人クリスチャンは、重大なものを見失っている。
①旧約聖書の軽視から来る損失
②ユダヤ的視点の無視から来る損失
③終末論の混乱と忘却

2. トーラーはメシアと新約を示している。
（1）トーラーに記された祭りは、メシアの活動を予表している。
（2）初臨と再臨を予表している。
（3）終末に起こる出来事を予表している。

3. レビ記 23 章には、7 つの【主】の例祭が時間順に記録されている。
（1）春の例祭は 4 つ（約 50 日の間にやってくる）：メシアの初臨
（2）中間期は約 4 ヶ月：今の時代
（3）秋の例祭は 3 つ（2 週間の間にやってくる）：メシアの再臨
（4）3 つは巡礼祭（エルサレムに上って祝う祭り）

Ⅰ．過越の祭り（巡礼祭、レビ 23：5）

1. 内容
（1）イスラエル国家の誕生を記念する祭り
（2）ニサンの月（第 1 の月）の 10 日に、子羊かヤギのうちから傷のない 1 歳の雄を取る。
（3）それを 14 日まで吟味する。
（4）問題がなければ、その日の夕暮れにほふり、その肉を焼いて食べる。

（5）種なしパン、苦菜もともに食べる。
（6）出エジプトの出来事への参加
（7）契約の民としての自己認識の確認

2．預言的意味
（1）バプテスマのヨハネの証言
「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』」（ヨハネ 1：29）
（2）イエスは、ニサンの月の 10 日（日）にエルサレムに入城された（棕櫚（しゅろ）の聖日）。
（3）イエスは、14 日（木）までユダヤ人の指導者たちから監視された。
（4）15 日（金）の午前 9 時に十字架につけられた。
（5）最後の晩餐は過越の食事であった。
（6）私たちは、聖餐式を通して、十字架の出来事を追体験する。

Ⅱ．種なしパンの祭り（レビ 23：6〜8）

1．内容
（1）過越の祭りは 1 日で終わる。
（2）15 日の朝から 7 日間続く。この間、種なしパンを食べる。
（3）新約時代になると、過越の祭りと一体化する（マタイ 26：17）。
（4）出エジプトの夜の出来事を思い出す。
（5）初日と最後の日が、特別な日。いけにえを捧げ、労働を休む。

2．預言的意味
（1）「パン種」は、罪の象徴である（1 コリ 5：7〜8）。
（2）キリストが罪のない血を捧げたときにこの祭りは成就した。
（3）私たちの心からパン種を取り除く方法は、告白である。
「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」（1 ヨハ 1：9）

Ⅲ．初穂の祭り（レビ 23：9〜14）

1．内容
（1）月日は指定されていない。

（2）過越の祭りの後に来る最初の安息日の翌日（週の初めの日、今の日曜日）
（3）収穫の初穂の束を捧げ、祭司がそれを【主】に向かって揺り動かした。
（4）これは、大麦の初穂である。
（5）大麦以外にも、捧げ物があった。
①全焼のいけにえ（１歳の雄の子羊）
②穀物の捧げ物
③注ぎの捧げ物（ぶどう酒）など

2．預言的意味
（1）キリストの復活を予表している。
（2）キリストは金曜日に十字架に付けられ、日曜日に復活した。
（3）キリストは、初穂の祭りの日（日曜日）に復活した。
（4）パウロの教え
「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です」（1 コリ 15：20〜23）

Ⅳ．７週の祭り（巡礼祭、レビ 23：15〜21）

1．内容
（1）ヘブル語で「シャブオット」、ギリシヤ語で「ペンテコステ」
（2）初穂の祭から 50 日後の日曜日（週の初めの日）
（3）シナイ山での律法の付与を記念する祭り
（4）初穂の小麦粉 10 分の 2 エパ（4.4 リットル）で種を入れた 2 つのパンを焼く。
（5）パン 2 個、全焼のいけにえ、穀物の捧げ物、注ぎの捧げ物を献げた。
（6）パン 2 個は、主に向かって揺り動かした後、祭司の取り分となった。

2．預言的意味
（1）聖霊の降臨を予表している（使 2：1〜4）。
①「メシアの律法」が心に記される。
（2）救済史における新しい時代の到来
①聖霊の時代
②教会時代（教会は、旧約聖書に預言されていなかった「奥義」である）
（3）教会の本質（エペ 2：11〜16、3：6）

①種を入れた 2 つのパンの意味

「パン種（罪）を持ったユダヤ人と異邦人が、キリストにあって罪聖められ、新しいひとりの人とされる」

挿入：中間の４ヶ月（レビ 23：22）

1．内容

（1）春の 4 つの例祭と、秋の 3 つの例祭の間の中間期（レビ 23：22）

（2）収穫の時、畑の隅まで刈り取らない。落穂を残しておく。

①社会的弱者（貧しい者、在留異国人）を救済するため。

（3）「わたしはあなたがたの神、【主】である」

①この命令が契約関係に基づくものであることを表わしている。

2．預言的意味

（1）キリストの初臨と再臨の間の時代（教会時代）を予表している。

（2）キリストの再臨の前に、中間期として世界宣教の時代が与えられている。

Ｖ．ラッパの祭り（レビ 23：23〜25）

1．内容

（1）第７月（ティシュリ）の第１日。第１日は「新月の日」。

（2）第７の月は安息月であり、その新月の日は特に重要な日と見なされた。

（3）この日に、ラッパ（角笛）を吹き鳴らす。

（4）「聖なる会合」とは、特別ないけにえを捧げる日という意味。

（5）この日には、どんな仕事も禁じらた。

（6）この日には、火による捧げ物が主に捧げられた。

①捧げ物の具体的な解説は、民 28：11〜15 と同 29：1〜6 にある。

2．預言的意味

（1）ラッパの祭りは、教会の携挙を予表している。

（2）クリスチャンたちは、ラッパの音とともに天に引き上げられる。

①教会時代の終わりに起こる出来事

(3) 1 テサ 4：13〜18（特に 16 節）

「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、…」（16 節）

(4) 1 コリ 15：50〜58（特に 51〜52 節）

「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです」

(5) ４ヶ月の中間時代（世界宣教の時代）の後に、教会の携挙がやってくる。

(6) テサロニケのクリスチャンたちは、このことによって慰めを得た。

Ⅵ. 贖罪の日（レビ 23：26〜32）

1. 内容

(1) 第７の月（ティシュリ）の 10 日

(2) この日には特別な献げ物が献げられる（レビ記 16 章）。

①2 頭のヤギ

②アザゼルのため、主のため

(3) 贖罪の日の献げ物は、イスラエルの民全体の罪を贖うためのもの。

(4) 贖罪の日の儀式は、毎年イスラエルの民を清め、また幕屋を清めた。

①聖なる神と特別な契約関係を再確認

(5) この日の特徴は「身を戒める」こと。つまり、「断食」をするということ。

①贖罪の日は、「祝いの日」ではなく、苦悶の日。

②ユダヤ人たちにとっては最も厳粛な日、神の前に悔い改める日。

（例話）1973 年の第４次中東戦争（ヨムキップール戦争）

2. 預言的意味

(1) 贖罪の日は、教会の携挙に続く大患難時代を予表している。

(2) イスラエルの民は肉体的にも霊的にも苦難を経験するようになる。

①ゼカ 12：1〜9

(3) 大患難時代の最後に、イスラエルの民の国家的救いが実現する。

(4) イスラエルの救いは、キリストの地上再臨のための前提条件である。

(5) 贖罪の日の成就は、イスラエルの民の苦悶と、それに続く国家的救い。

①ゼカ 12：10〜13：1

②ホセ 6：1〜3

Ⅶ. 仮庵の祭り（巡礼祭、レビ 23：33〜44）

1．内容

（1）巡礼祭の一つ。第７の月の 15 日が、仮庵の祭りに当たる。

（2）７日間の祭りであるが、8 日目も労働をしてはならないと命じられた。

（3）祭りの期間、特別ないけにえが捧げられた。

①民 29：12〜34

②雄牛は合計 70 頭献げられた。

③ノアの子どもたちから派生した 70 の異邦人の国々（創世記 10 章）を象徴。

（4）祭りの期間、仮庵に住むようにと命じられている。

①美しい木の実、なつめやしの葉、茂り合った木の大枝、川縁の柳

＊「美しい木の実」としてシトロンと呼ばれる柑橘類が

＊「なつめやしの葉」としてルラブと呼ばれる植物が、

＊「茂り合った木の枝」としてミルトスが、

＊「川縁の柳」としてアラバアと呼ばれる植物が使われている。

（5）この祭りの目的は、荒野の旅を記念するため。

2．預言的意味

（1）仮庵の祭りは、メシア的王国（千年王国）を予表している。

（2）メシアの地上再臨の後、千年王国が設立された時、この祭りは成就する。

（3）そういう意味で、仮庵の祭りは喜びの祭り。

（4）異邦人の国々も、エルサレムに上って来てこの祭りを祝うようになる。

「エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の【主】である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。地上の諸氏族のうち、万軍の【主】である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝いに上って来ない諸国の民を【主】が打つその災害が彼らに下る。これが、エジプトへの刑罰となり、仮庵の祭りを祝いに上って来ないすべての国々への刑罰となる」（ゼカ 14：16〜19）

（5）イエスもまた、この祭りを祝っている。

①ヨハ 7：1〜10：21 は、その間のイエスの活動を記したものである。

（6）仮庵の祭りは、旧約聖書の預言のクライマックス。

結論

1．イスラエルの祭りは、メシアの活動を予表している。

2．イスラエルの祭りの前半（春の祭り）は、すべて成就した。

3．今は中間期にある。

4. イスラエルの祭りの後半（秋の祭り）は、終末論を規定する。

（1）携挙は患難期前に起こる。

（2）患難期の最後にイスラエルの民族的救いが起こる。

（3）イスラエルの祈りに答えて、メシアの地上再臨が起こる。

（4）地上にメシア的王国（千年王国）が成就する。

賛　美

「輝け主の栄光」（リビングプレイズ 110）

愛の光　かがやき

暗闇を　照らしだす

わが主イエス　世の光

自由を与える　ちから

いのちの　みことば

輝け　主の栄光　地の上に

こころを　燃やしたまえ

あふれよ　主の恵み　あわれみ

この地を　生かしたまえ

第４回 再臨待望聖会

タイムスケジュール

プレ大会

沖縄・名古屋・札幌会場

12：30 ～	開場		
13：00 ～ 14：30	聖会Ⅰ	黒川師、ポステル師メッセージの要約	中川健一
14：30 ～ 15：00	休憩		
15：00 ～ 16：30	聖会Ⅱ	「イスラエルの祭りに隠されたメシア」	中川健一

大阪会場

9：30 ～	開場		
10：00 ～ 11：15	聖会Ⅰ	黒川師、ポステル師メッセージの要約	中川健一
11：15 ～ 11：30	休憩		
11：30 ～ 13：00	聖会Ⅱ	「イスラエルの祭りに隠されたメシア」	中川健一

本大会

東京会場

9：30～	開場		
10：00 ～ 11：30	聖会Ⅰ	「再臨運動とホーリネスリバイバル」	黒川知文
11：30 ～ 13：00	聖会Ⅱ	「モーセの五書が指し示す福音」（1）	セツ・ポステル
13：00 ～ 14：00	休憩		
14：00 ～ 15：30	聖会Ⅲ	「モーセの五書が指し示す福音」（2）	セツ・ポステル
15：30 ～ 17：00	聖会Ⅳ	「イスラエルの祭りに隠されたメシア」	中川健一
		まとめ	

2013 年 2 月、3 月開催